

2020年度 第4回理事会 議事録

【日 時】 2020年10月27日（火） 19:00～21:00

【会 場】 釧路市中園24番10号杉元内科医院内 （オンラインで実施）

【出席者】（五十音順・敬称略）

理 事 長：杉元 重治

副理事長：竹田 匡 望月 誠

理 事：浅野 洋郎 稲荷 弥生 岡田 実継 金森 泰夫 細川 克裕
宮前 彰彦 吉野 整子 米澤結実子 （計11名）

監 事：若杉 貴子（計1名）

【欠席者】（五十音順・敬称略）

理 事：なし （0名）

監 事：なし （0名）

議 事

1 定足数の確認

出席者11名により、理事総数の過半数（6名）を上回っていることを確認した。

2 議長選任

定款第35条にもとづき、杉元理事長が望月副理事長を指名し議長に就任した。

3 議事録署名人選任

定款第38条にもとづき、望月副理事長と杉元理事長を議事録署名人とした。

4 開会挨拶

杉元理事長 挨拶

5 協議事項

以下の3つの点について、竹田副理事長から口頭で説明があり、協議を行った。

(1) 2020年度サロンの開催内容について 【残り2回】

・ 開催テーマ案

- オンライン診療～携帯電話を使用した問診。
- 社会的処方
- 新型コロナウイルス感染症対策
- オンラインでのサービス担当者会議を深堀しては。
- コロナ禍で集まるのは難しい。オンラインで医療を考えてはどうか。
- コロナ禍のマニュアルがあるが、現場での対応が難しい。
- クラスタが2カ所発生したからこそ、情報交換。
- PCR検査のあり方や対象などの情報交換。
- マニュアルと現状（現場）との乖離（混乱）。インフルエンザを発熱し、感染した場合の対応や早い段階での情報共有。
- オンラインでの開催が妥当か。
- サービス担当者をオンラインで実施したことがないのでもう一度。
- オンライン診療という言葉を知っているが、オンライン診療の実際について、

お知らせするような内容でもよいのではないか。

- 冬に向かいインフルエンザとの見極めや対応などを共有しては。
- コロナの感染症対策が不安。不安が払しょくできるとよい。
- 現場ではコロナの関係で混乱している。
- オンラインでサービス担当者会議を実施する場合、退院する場面でのオンライン会議を実施してはどうか。退院する患者編。
- コロナの関係で入院を受けている。居宅と一緒に、利用者がサービスの利用できなくなった。問い合わせが多い。こういう状況でどのように連携していくのか。
- 感染症対策では、道外からの帰省家族介護者との接触。濃厚接触者や感染が疑われる場合の訪問対応などの情報交換。
- 参加している人が色々なことを話せる。自分がどのように動いていったらいいのか。迷う。濃厚接触者との関り方。ガイドラインのあるところとガイドラインのないところ。不安な人もいるかもしれないので、今さら聞けないことや情報共有。
- オンラインをもつ可能性。CCLでどのように携わっていくのか。オンラインが利用者に近づいていくためにどのような情報発信していくのか。
- 生活保護、成年後見制度、自立を目指した排泄ケア、新型コロナウイルス感染症の感染予防、低栄養の評価と予防、身よりなしの支援をテーマとして考えた。
- 新型コロナウイルス感染症の感染予防と生活保護が優先順位が高い。残り2回とも新型コロナウイルス感染症をテーマとしてもいいのではないか。
- 具体的にどうしたらいいのか、関心が高いテーマである。利用者も従事者を守る意味でも重要。発熱があったりとか。どのような対応が必要なのか。2次感染を防ぐことも重要。そのために情報の共有をどのように進めていくのがよいか。
- 濃厚接触者はどこからどこまで？
- 感染が拡大すると他の業務ができなくなる。施設内で何が起きていたのか、知りたいのではないか。
- 以上の協議を踏まえ、「新型コロナウイルス感染症」をテーマとすることとした。
 - ★ 医療機関・介護事業所の感染症対策と連携
 - ・ インフルエンザと新型コロナウイルス感染症の違いと対応
 - ・ 感染者（疑い）・濃厚接触者（疑い）の考え方
 - ・ オンライン・サービス担当者会議
 - ・ 個人情報の共有のあり方
 - ★ オンラインでのサービス担当者会議（VOL.2）



(2) オンライン相談事業について

- 情報共有が難しい中では、ざっくばらんに相談できる体制整備が必要。
- オンラインの活用方法を理解しはじめたところで、他の利用者に広げていくか。

- 広めるための活動が必要では。
 - 相談前の相談ができる場所があるとよい。
 - オンラインで相談。対面が苦手な人。あまり関わってこなかった人。
 - 待合室で相談できるのはよいのではないか。土曜日とか時間を決めての対応してはどうか。
 - 多くの方が救われるのではないか。歯科医師会では連携室があるが、電話での対応のみとなっている。色々な相談がくる可能性がある。連携室でのノウハウを活かしながらいいものにできたらいい。
 - 包括では、相談なのか、話を聴いてほしいのか。30分から60分と聞きづけることもある。遠方の家族からの相談を受けることができる。
- 以上を踏まえ、事業化することの必要性を確認し、事業化に向けた準備を進めていくこととした。

(3) 2021年度の事業方針について

コロナ禍の影響を踏まえた事業展開について、意見交換を行った。

- コロナ禍が落ち着いてもオンラインが普及していきたい。
- コロナ禍を前提とした事業展開がよい。今年度と同じようなこと。
- オリンピックの開催でコロナ禍の拡大。オンラインでの開催が妥当。
- オンラインの活用方法の説明や情報発信
- 空床情報の共有
- 今年度、地道に協定を締結しているので締結団体と会合を開催×2意見
- オンラインだからこそ、招聘できる講師×2意見
- 生活保護のコロナ禍でも重要なテーマ。
- オンライン診療を受けている経験から、オンライン診療の考え方も重要。
- 医療と介護との懸け橋の立場から、さまざまな情報発信が重要。

以上の意見を踏まえて、事業計画を策定していくこととした。

6 報告事項

(1) 釧路市との協議結果等について

- 要望事項については不採択について、竹田副理事長から報告。

(2) 他団体との医療・介護連携協定の締結状況について

- 北海道介護福祉士会釧路支部（9月28日付け）について、竹田副理事長から報告。

7 閉会

(1) 次回 1月 日 19:00～

以上、この議事録が正確であることを証します。

2020年6月26日

議事録署名人 議長 望月 誠

議事録署名人 理事長 杉元 重治

